

1月15日 午後

ホアビン省タンラック県人民委員会での聞き取り

ハノイの南西、ホアビン省の訪問初日、同省タンラック県の人民委員会を訪れ、日本国際ボランティアセンターが同県で行う開発支援事業との関係が深い同委員会のケム氏から、タンラック県の農業に関する話を伺った。

タンラック群は人口約8万人、その85.5%を少数民族が占めており、中でもムオン族と呼ばれる人たちが圧倒的に多い。政府によりベトナムを構成する民族は全54と定められ、多数派は人口の8割強を占めるキン族であるとされていることから、当該地域の特殊性を窺い知ることが出来る。話によると郡の人口の内約42%が農業関係者であり、土地利用の割合から見てもこの地域において農業が占めている役割は大きい。しかしながら、山地という環境故に比較的寒冷であり、栽培可能な植物が稲やトウモロコシなどに限られてしまっている。このように生活環境の厳しい状況にあるが、問題点は様々な政策の下で改善されつつあるという。具体的には寒冷という気候条件を逆手にとり、今後はカリフラワー・キャベツなど涼しい土地でも収穫可能な野菜を育てていく、とのことである。

質疑応答では、キン族との関わり方に質問が集中することとなった。そこでは、民族間の文化の違いをも肯定し、良き所は見習っていくといった方針を聞く事ができた。弊害としては、機織り等の伝統文化が廃れつつあることが挙げられていた。

基礎データの説明がやや多かった感はあるが、人民委員会（役所）関係者から聞き取りが可能であったことは興味深いものであった。どこまでが建前なのかは測りかねるが、役所を通して行政側の判断・思考の有り方に触れる事ができた体験は、今後の研究にも役立つものと思われる。

（記録：北沢直宏）